

町内の急傾斜地・地すべり・土石流危険地域の現状は

榎谷議員

地すべり危険箇所の再度見直しを、また崩壊による被害を受ける可能性のある人家が何箇所あり、その崩壊対策事業の進捗状況はどうなのか。

ハード面にはお金と時間がかかります、だからこそソフト面が重要になります。地域全体で防災力を高めることが減災に向けては大事なことだと考えます。

知らせる義務と知る努力を行政と地域住民の方々に是非とも持っていた頂き、自然災害に対応する能力を養わなければならないと考えます。その啓発に向け今後どのように取り組んでいくのか、町内の状況と今後の地域住民の説明会の有無についてお聞きします。

福井町長

牟岐町では全国的な大規模災害の度、また、国の災

害対応が変わる度に、町民の皆様には防災に係る情報提供や普及啓発を実施してきましたが、最新の情報を基に、町民の皆様にとさらなる防災意識の向上と緊急時の避難対応の確認をしていた

全国で土砂災害の危険箇所は52万箇所あると言われており、ハード対策が追いつかない状況です。したが

土砂災害防止法に基づき、土砂災害から人命を守るため、土砂災害の恐れのある区域の危険性の周知、警戒避難体制の整備等のソフト対策を推進しています。

災害対策はハード面、ソフト面において国、県、町の対応に限界があります。常日頃から災害に対する基礎的な知識の把握に努め、避難勧告、指示などの発令時には冷静に、かつ的確に行動していただくよう、お願いいたします。

寒葉建設課長

町内の急傾斜地崩壊危険箇所180、土石流危険箇

所20、地すべり危険箇所3の合計203箇所となっています。

事業の現状は、天神前、宮田、牟岐東、清水、大谷、牟岐大谷、出羽島北、杉谷の8地区が対象地区で、事業実施状況は、一部完成していない場所がありますが、事業としては概成となっています。

ソフト事業の調査済地区は土石流・地すべり・急傾斜地で合計66箇所が警戒区域・特別警戒区域に指定され、随時、県と町により関係する町民の皆様説明に入っています。ハード対策も、天神前、牟岐東地区で県により急傾斜崩壊対策工事の計画がされています。

地域包括ケアシステムの充実を
— 山 稔 議員

医療、介護総合確保推進法が設立し、在宅生活を支える定期巡回、随時対応サービス、訪問看護などの充実が不可欠だとしており、その地域に適した効果的なサービス体系を組み計画的

に実行すべきで人材の確保も大切だし、介護職員の処遇改善にも取り組まなければなりません。

高齢者の住居確保も課題で空き家の活用になるのではと思うが、空き家への対

ソフト事業の調査済地区は土石流・地すべり・急傾斜地で合計66箇所が警戒区域・特別警戒区域に指定され、随時、県と町により関係する町民の皆様説明に入っています。ハード対策も、天神前、牟岐東地区で県により急傾斜崩壊対策工事の計画がされています。

福井町長

空き家の活用は、その施設の有効活用と生活支援サービスの充実につながる。一石二鳥の策ですが、平成23年度の空き家調査以来、提供を申し出ている方は二人で、現時点では、ご提案の事業が執行できる空き家は把握していません。今後、地域おこし協力隊の力を借り、空き家の有効活用について行動を開始します。

介護支援ボランティアポイントの制度は、高齢者保険料の軽減だけでなく、介護予防効果、地域の活性化、住民のつながりの強化など包括ケアの主旨に沿う各種効果が期待できると思うので前向きに検討します。

百々健康生活課長

介護職員の処遇改善は、平成27年度の介護報酬改定で検討されており、介護人材の確保は、消費税増税分を財源として新たな財政支援の中で事業等を実施し、養成も含め確保されると思っています。

リハビリ専門職の確保と